

東京オリンピックを成功させる！ 家族を愛し、  
防災、救護体制づくりに心血を注ぐ

高校卒業後に東京消防庁に入庁し、  
消防官としてキャリアを重ねている伊藤さん。  
一方で専大の法学部に通い、  
仲間と助け合いながら学びの道も歩んできた。  
現在では来たる東京五輪の準備室長を務め、  
五輪成功の重責を担う。  
伊藤さんの歩みと、  
東京五輪にかける想いについて  
語っていただいた。

## 伊藤幸永さん (平7・法律)

東京消防庁企画調整部  
オリンピック・パラリンピック準備室長

いとう ゆきなが ●1967 (昭和42) 年生まれ。  
北海道旭川市出身。専修大学法学部法律学科卒。  
1986年に高校を卒業後、同年9月1日付で東京  
消防庁消防学校入学。1989年、専修大学に入学。  
2017年4月より企画調整部オリンピック・パラ  
リンピック準備室長を務める。

東京消防庁オリンピック・パラリンピック  
準備室の校友 左から、滝川貴樹総務  
係長 (平4・経済)、伊藤さん、鈴木ちは  
る総務係主任 (平18・商業)。

消防学校卒業後、下町の消防署へ  
仲間と共に専大二部を受験し合格

高校卒業まで生まれ育った旭川で過  
ごしました。もともと小学校から高校  
生までトランペットをやっていて、音  
楽隊に入りたくて、東京消防庁を志望  
しました。

高校を出た年の9月に東京消防庁に  
採用され、消防学校に入校しました。  
これは、毎年4月、9月、11月、2月  
と分かれている採用区分によるもので  
す。学校では教官に「音楽隊に入ると

ずっと音楽隊になるよ。君は身体がし  
っかりしているから火災現場で勉強し  
なさい」と言われて、現場の道を選び  
ました。「せっかく消防に入ったのだ  
から、人の役に立ちたい」という思い  
もありました。消防学校を卒業して配  
属されたのが葛飾区の金町消防署でし  
た。寅さんや「こち亀」の舞台にもな  
った下町にある消防署です。

当時は「消防庁に勤めれば、夜間大  
学に行ける」という風潮がありました。  
実際、金町消防署で夜間大学に通って  
いる先輩達も多く、特に専修大学の門

戸は広く、金町消防署の  
寮生でも5人ぐらい専修  
大学に通っている人がい  
ました。

金町消防署に配属され  
た同期生と「一緒に専大  
受けようか？」という話  
をして、無事に専修大学  
の二部に受からせてもら  
いました。入学は平成元  
年4月で、働きながら学  
びましたから卒業までが  
長いのは気にしないでく  
ださい (笑)。

大学では、現理事長の  
日高先生が教授だった頃  
に刑法総論の授業を受け  
たことが印象深く残っ  
ています。刑法という法律  
に触れるのは初めてで  
したが、日高先生が非常  
に紳士的なふるまいでいら  
したので、その印象もあ  
って初めての授業をよく  
覚えていますね。当時、

非番日といいますが、泊まりがけ勤務  
の翌日に学校が重なるとやっぱり眠い  
んですね。しかし、日高先生の授業  
はとにかくわかりやすく、スマートで  
した。法律を学ぶこと自体、高校では  
なかったことですし、まして刑法は消  
防に多少なりとも関わる分野です。そ  
ういふ部分でも分かりやすく、刑法を  
かみ砕いて、理解しやすくしてくれる  
という印象でした。

確か日高先生の妹さんが東京消防庁  
の女性消防官なんですよ。自分の妻も  
元女性消防官ということもあり、不思



中越地震の救出活動に向かうハイパーレスキュー  
のヘリコプター内で。/現場で指示を出す伊  
藤さん。

議なご縁を感じ、親しみがありました。

専大2年次に女性消防官と結婚  
大学卒業までサポートも

実は、自分は大学2年の時に女性消  
防官だった女房と結婚したのです。最  
初の出会いは消防学校でした。彼女は  
4月に入校で僕は9月入校となります。  
彼女は8月卒業でしたが、学校で出初  
式に出ており、そこで見かけて一目ぼ  
れでした。名札を見たら、金町消防署  
と書いてあり、自分も同じ金町に配属  
されたのはとても幸運でした (笑)。

消防官、学生、一家の家長として生  
活するなかで、やっぱり24時間勤務明  
けはどうしても眠いんですね。授業  
も全部受けたいけど受けられなかった



専大卒業の記念に。学生結婚した奥様と銀座松屋の写真  
館で撮影し、非常に思い出に残っている一枚。

という苦労もありました。ただ警視庁  
の方とか、消防の仲間も大勢いました  
し、会社勤めの学生、一般学生とも多  
く交流して、ノートを貸し借りして助  
け合いで学生生活を送っていました。  
勉強だけでなく、日曜体育では生田校  
舎にバレーボールをしに行きました。  
結構いい雰囲気楽しくやりましたね。  
終わった後にはお酒を飲みに行く  
などして、とても充実していました。

学生時代、卒業まで時間がかかった  
こともあり、一時は退学も考えました。  
ただ女房に「せっかく入った学校だか  
ら卒業までがんばって」と励ましても  
らい、卒業を目指しました。卒業式後  
に銀座松屋の写真館に行って、卒業証  
書を持って女房と2人で撮影したんで  
す。とてもいい記念でいまでも大切に  
しています。

新潟中越地震の救助活動では  
全国警察、消防、自衛隊がひとつに

消防官としてこれまで仕事に携わっ  
てきたなかで、非常に思い出深く残っ  
ているのが平成16年10月に発生した  
新潟県中越地震です。大規模な土砂崩  
れを起こし、車ごと土砂に巻き込まれ  
て母子2人が死亡、当時2歳だった皆川  
優太ちゃんが92時間後、4日ぶりで奇跡  
的に救出され、大きく報道されました。

私もその現場にヘリコプターで派遣  
され、救出活動をしていました。報道



では東京消防庁のハイパーレスキュー  
が救助活動にあたったとされていまし  
たが、実際には全国から自衛官、消防  
官、警察官が派遣され、みな協力し  
て救出にあたりました。

阪神・淡路大震災 (平成7年) をき  
っかけに、全国の消防が連携を取って  
救助にあたる仕組みができました。緊  
急消防援助隊という制度で、昨今の熊  
本地震、広島の高雨災害などあらゆる  
現場で活動しています。実は消防は県  
警と違って、市町村が管轄なんです。  
母体が小さい分、素早く地域の緊急事  
態に対応できるというメリットがあり  
ます。しかし大きな連携を取る時には  
緊急消防援助隊という仕組みが必要に  
なるわけです。その大枠での現場への  
派遣でした。

土砂からのかすかな泣き声に  
東京消防庁所属の隊員が気づく

私は救助課というセクションの司令  
補という階級で、ハイパーレスキュー  
を所管する部署だったので現場に行っ  
たわけです。現場で特殊な器具を使い、  
生存者を探したところ、隊員が子ども  
の声をわずかにとらえた。民間報道の  
ヘリコプターを現場から引いてもらっ  
て、改めて調査すると、確かに泣き声  
が聞こえ、生存を確認しました。この  
時、生存者を発見したのが東京消防庁  
だったのです。重機を使うと現場の土

砂がさらに崩れる可能性があったので、手作業で土砂をかきわけて交代で現場を掘り起こしました。最後に優太ちゃん救出に結びついたことは本当にうれしかったですね。当時優太ちゃんは2歳で、うちの娘は3歳でしたから、歳が近いこともあり、命の重たさ、子どもに対しての気持ちなどがさまざまなものが去来したものです。

救出された場面は、ヘリコプターからも中継されており、東京消防庁のセンターでも画面に映し出され、大変な歓喜と涙に包まれたそうです。小さな命を無事に救出でき、消防に入って良かったな、と思いました。

## 東京五輪に向けて建物、施設の消防体制、救急体制づくりを推進

平成27年に、オリンピック・パラリンピック準備室が新しく設置されました。現在、大会の施設が続々と建造されており、その建物の検査を行っています。実際の大会中に火災があったらどうするのか、消防の警戒体制を作るとともに、救急体制をどう整備するのかということも重要です。競技会場に救急車を配置してくれという要望があり、それも選手用と観客用、もうひとつ予備の3台を入れるということがオリンピック開催の要綱にも盛り込まれており、こういった部分の調整を進めています。ほかに会場整備局、防火調整課、メディカル、全体的なリスクマネジメントをする部署など、全体の統括を担っています。



仕事を終え、東京消防庁の仲間と皇居ランで汗を流すのが日課に。Appleウォッチでモチベーションもアップ。



校友会職域支部・東京消防庁おおとり会のメンバーと。同庁1万9千人の職員のうち、600人が専大OB。

東京消防庁としては安心、安全な大会環境を作っていくことが大前提です。開催成功に向かって、総力を挙げて警戒していきたいと思っています。そのためにヘリコプターのエアハイパーレスキュー、海上のタグボート付きの船など、東京消防庁のすべてを駆使して大会に寄与していきたい。海の競技、山間部の競技などもありますので、それらに対応できるよう対策づくりを進めているところです。

また夏に開催される大会ということで、熱中症対策が重要です。まずは広報ですよね。水をマメにとりましょう、熱中症対策をしましょう、というアナウンスを徹底していきます。個人の方、外国人の方への暑さ対策をしっかりと伝えていくことが大切だと思っています。

## 2020年に行われる2大イベントにOBとして大きな期待を寄せる

東京五輪ではフェンシングの菊池（小巻さん・商4）選手をはじめ、専大の在校生、卒業生ともに出場選手に名を連ねる人が出てきています。ますますの活躍を期待しています。OBとして微力ながら協力したいと考えています。

現在、東京消防庁では1万9千人の職員がいます。そのうちの600人が東京消防庁おおとり会です。職域支部としては最も大きいのではないのでしょうか？ 2020年には神田キャンパスに新たな校舎が建つというビッグプロジェクトも耳にしています。OBとして嬉しいし、私も非常に期待し、注目しています。オリンピックの年に行われる専大の挑戦を応援していきたいですね。

東京都、日本を挙げてのプロジェクトを成功させるために、個人的にはやはり家族の力が大切だと感じています。仕事でつまづいた時にしっかりサポートしてくれる妻と娘を、これからも大切にしていきたいと思っています。（談）



(向かって左から) 東京2020オリンピックマスコット「ミライトワ」、東京消防庁マスコット「キュータ」、東京2020パラリンピックマスコット「ソメイティ」。